

事業報告（令和7年度）

<堺市博物館 展示>

○企画展

- ・「堺の技と美 工芸を彩るレッド&ブルー」 (23)
- ・「堺のたからもん一金で魅せる・黒を愛でる」 (24)

○特別展

- ・第27回堺市所蔵美術作品展
「堺の竹工芸家たち
—前田竹房斎と田辺竹雲斎—」 (25)

<さかい利晶の杜 展示>

○企画展

- ・「堺に生きた山崎豊子のまなざし
—愛用品の数々—」 (26)
- ・「パリより—与謝野晶子と寛の渡欧体験—」 (27)
- ・「世界から堺へ～中世界の栄華をたどる～」 (28)
- ・空気調和設備改修工事について (29)
- ・休館中における常設展示のリニューアル等 (30)

<資料>

○堺市博物館

- ・新収蔵資料 (31)
- ・整理事業 (33)
- ・保存修理 (33)
- ・IPM（総合的有害生物管理）・資料燻蒸 (33)
- ・館外貸出 (33)
- ・特別利用 (33)
- ・第9回「ふね遺産」認定(令和7年9月24日付) (33)

○さかい利晶の杜

- ・新収蔵資料 (34)
- ・保存修理 (34)

<普及>

- ・体験学習会 (35)
- ・サンデートーク (35)
- ・ミュージアム・パス&スタンプラリー2025 (35)
- ・中堅教諭等資質向上研修(社会体験研修) (36)
- ・博物館実習 (36)
- ・茶会「竹に会う」 (36)
- ・ナイトミュージアム (36)
- ・堺市博物館フォーラム
「ミュージアムでの教育活動
こどもたちに何を学んでもらうのか？」 (37)
- ・「日本と世界が出会うまち・堺 2025」
プロジェクト (37)
- ・出前授業「むかしの暮らしを知ってみよう」 (37)
- ・第42回古文書講習会 (37)
- ・オンラインミュージアム (38)
- ・ミュージアムグッズ (38)
- ・堺市博物館共同研究
「中世界における歴史文化に関する
学際的研究会」 (38)
- ・学芸員のアウトリーチ活動 (38)

<無形文化遺産の普及促進事業>

- パネル展示 日本の無形文化遺産 (41)
- ・堺市博物館サンデートーク (41)
- 無形文化遺産理解セミナー・ワークショップ
・中国太極拳の魅力にふれあおう (41)
- 無形文化遺産理解セミナー
・ユネスコ無形文化遺産「伝統的酒造り」
一次世代へ受け継ぐ日本の文化— (42)
- ・メンテナンスやリサイクルから読み解く伝統
木造建築の歴史—森を守り、生活文化を伝承
させたサステイナブルな技術 (42)
- 堺の無形文化遺産 堺緞通 (43)
- 無形文化遺産展示動画作製事業 (43)

- 職員 (44)
- 堺市博物館協議会委員 (44)
- 令和7年度 堺市博物館 入館者数 (44)
- 利用案内 (45)

【令和7年度】

堺市博物館 展示

企画展 「堺の技と美 工芸を彩るレッド＆ブルー」

令和7年5月20日(火)～7月13日(日) (開催日数48日間)

堺のまちでは、国内外から先進的な文化が流入し、モノづくりが活発におこなわれてきました。それらのなかには、実用にとどまらず、美しい造形を追求したものが数多くあります。美しい造形の大事な要素として「色」が挙げられます。本展では大阪・関西万博のシンボルカラーである赤と青に注目し、古代から近現代までの歴史的な工芸品の赤と青を紹介、それらに人々がどのような思いを込めたのか考えました。展示点数60件。観覧者数12,002人。解説パンフレット発行。(宇野)

【主な展示資料】

第1章 エネルギーの赤、マジカルな赤

- ・メノウ製勾玉 反正天皇陵古墳出土
古墳時代中期 5世紀中頃 (堺市文化財課蔵)
- ・漆塗太鼓形酒筒 重要文化財
室町時代 文明5(1493)年 (当館蔵)
- ・湊焼海老形向付 長浜屋吉兵衛作
江戸時代後期～明治時代 19世紀 (当館蔵)
- ・与謝野晶子著『太陽と薔薇』山本鼎装幀
大正10(1921)年 (当館蔵)
- ・嵩高鉛丹 現代 21世紀 (NIケミテック(株)蔵)

第2章 あいまいな青、憧れの青

- ・袈裟襷文銅鐸 堺市西区浜寺昭和町出土 重要美術品
弥生時代中期 BC2世紀～AD1世紀 (当館蔵)
- ・車輪石 乳岡古墳出土
古墳時代前期 4世紀後半 (堺市文化財課蔵)
- ・青磁劃花蓮華文碗 田園遺跡出土
中国・南宋時代 12世紀中頃～13世紀初
(堺市文化財課蔵)
- ・青花花鳥文盤
中国・明時代後期 16世紀～17世紀初 (当館蔵)

【関連事業】※は会場：博物館ホール

◆講演会※

- ①「珠洲焼の産地を襲った震災
—珠洲焼の歴史と能登半島の現状—」
日時：5月24日(土) 午後1時30分～3時
講師：寺口学氏(能登町教育委員会)
参加者数：25人
- ②「人類史における「色彩」をめぐる
—縄文時代の赤・埴輪の青を中心に—」

日時：6月8日(日) 午後1時30分～3時

講師：谷口陽子氏(筑波大学教授)

参加者数：73人

◆トークセッション※

- ①「探検家×神職が語る赤と青の彩り」

日時：6月28日(土) 午後2時～4時

講師：田中彰氏(溪谷探検家)・南坊城光興氏
(道明寺天満宮宮司)

参加者数：46人

- ②「堺のふとん太鼓

—百舌鳥八幡宮月見祭を中心に—

日時：7月12日(土) 午後1時30分～3時

講師：大熊和彦氏(百舌鳥赤畑町)・柴原博一氏
(百舌鳥梅町)・藤木博則氏(土塔町)

参加者数：51人

◆ワークショップ※

- ①「須恵器作り体験」

日時：5月25日(日) 午前10時30分～12時／
午後1時～3時30分／午後3時～4時30分

講師：西念秋夫氏(西念陶器研究所所長)・日本
最古の窯業地「すえむら」の会

参加者数：23人

- ②「カラフル書道体験

—色紙に好きな字を書こう—

日時：6月22日(日) 午後1時30分～4時(随時)

講師：根来孝明(当館学芸員)

参加者数：55人

◆展示解説

「色々な赤と青を見てみよう！」

日時：6月7日(土)、7月6日(日)

各日午後2時～(約30分)

参加者数：7人、11人

◆陶器まつり—能登半島復興支援—(主催：日本

最古の窯業地「すえむら」の会 協力：堺市博物館)

日時：5月24日(土)・25日(日)

会場：堺市博物館玄関前の広場

珠洲焼と泉州を中心とした陶芸作家の作品を
展示・販売。

企画展 「堺のたからもん—金で魅せる・黒を愛でる—」

令和7年7月19日(土)～9月7日(日) (開催日数46日間)

企画展「堺の技と美 工芸を彩るレッド&ブルー」に続き、金色と黒色をメインテーマに、当館やゆかりの方々が所蔵する優品や関係作品を展示しました。観覧者数14,214人。図録発行。(橘)

【主な展示資料】

第1章 金で魅せる

- ・仁徳天皇陵古墳 金銅装刀子・甲冑金具
(國學院大學博物館蔵)
- ・仁徳天皇大仙陵石郭之中ヨリ出シ甲冑之圖
【市指定】 (個人蔵)

第2章 黒を愛でる

- ・貫名海屋筆 瀑布図 (当館蔵)
- ・豊臣秀吉書状 (当館蔵)

第3章 黒と金の共演

- ・与謝野晶子愛用の着物 (当館蔵)

【関連事業】※は会場：博物館ホール

◆講演会※

(第1回) 仁徳天皇陵古墳の新知見1

日時：7月27日(日) 午後2時～4時15分

①「好古家 柏木貨一郎について」

講師：内川隆志 氏

(國學院大學博物館副館長・文学部教授)

②「明治5年の石室開口について」

講師：徳田誠志 氏 (関西大学客員教授)

参加者数：131人

(第2回) 仁徳天皇陵古墳の新知見2

日時：8月23日(土) 午後2時～4時30分

①「仁徳天皇陵古墳出土資料の考古学的検討」

講師：深澤太郎 氏 (國學院大學博物館教授)

②「仁徳天皇陵古墳出土資料の科学的検討」

講師：渡邊緩子 氏

(日鉄テクノロジー株式会社文化財調査・研究室室長)

③「仁徳天皇陵古墳前方部の石棺」

講師：十河良和 (当館学芸員)

参加者数：151人

◆ワークショップ※

①「本物の金箔を貼って古墳柄インテリアプレートを作ろう」

日時：7月20日(日)

午後1時～2時30分／午後3時～4時30分

講師：黒沢哲也 氏

(有限会社黒澤商店・伝統工芸士)

参加者数：12人

②「金継ぎでアクセサリを作ろう」

日時：8月17日(日)

午後2時～4時30分／午後3時～4時30分

講師：高城ちひろ 氏 (金継ぎラウンジ)

参加者数：15人

③「古代の文字を書いてみよう～私だけのウチワ作り～」

日時：8月30日(土)

午後1時～2時30分／午後3時～4時30分

講師：根來孝明 (当館学芸員)

参加者数：27人

◆展示解説「企画展を楽しむツアー」

日時：8月10日(日)、9月6日(土)

各日午後2時～(約30分)

参加者数：24人、23人

◆ベビーデー

日時：8月26日(火) 午前10時～12時

参加者数：3組6人



チラシ

特別展 第27回堺市所蔵美術作品展「堺の竹工芸家たち—前田竹房齋と田辺竹雲齋—」
令和7年9月20日(土)～11月3日(月・祝)(開催日数40日間)

明治時代、関西では煎茶道の隆盛により、唐物籃をはじめとした煎茶道具(竹工品)をつくる専門の職人「籠師」が活躍していました。籠師の中には、緻密な編組を特徴とした唐物籃を写すだけでなく、より緻密で複雑な編みを施すことで美しさを見出す者もいました。喫茶文化(抹茶道・煎茶道)が栄えた堺では、籠師として前田竹房齋(1872～1949、初代)と田辺竹雲齋(1877～1937、初代)が活躍し、茶道具をはじめ独創的な編みを施した芸術的な作品を制作し、竹工芸を芸術の分野へと発展させました。本展では、歴代前田家と田辺家の作品を展示し、それぞれの一門に受け継がれた伝統や伝統の中で生まれた各作家の特徴(個性)を紹介しました。また、同時に堺市茶室「伸庵」にて「四代 田辺竹雲齋展」を開催しました。観覧者数は6,559人、伸庵3,690人。図録発行。(荻山)

主催：堺市文化課／共催：堺市博物館／後援：大阪府、堺市教育委員会

【主な展示資料】展示点数 65件

プロローグ 堺の竹工芸家たち

—「籠師」から「作家」へ—

- ・初代 前田竹房齋 鳳尾竹円窓花籃兼釣花籃
明治中期～昭和初期(堺市蔵)
- ・初代 田辺竹雲齋 柳里恭式福盧形釣置花籃
大正13(1924)年(夢工房蔵)

I、前田竹房齋

—一以貫之(いちをもちてこれをつらぬく)—

- ・初代 前田竹房齋 鳳尾竹花籃
明治中期～昭和初期(堺市蔵)
- ・二代 前田竹房齋 花籃 昭和(堺市蔵)

II、田辺竹雲齋

—伝統とは挑戦なり—

- ・初代 田辺竹雲齋 大盃形花盛籃
昭和2(1927)年(夢工房蔵)
- ・二代 田辺竹雲齋 千集編末廣花籃 壽山
昭和61(1986)年(堺市蔵)
- ・三代 田辺竹雲齋 直花籃
昭和40(1965)年(堺市蔵)

- ・四代 田辺竹雲齋 昇龍(インスタレーション)
令和6(2024)年(夢工房蔵)

【関連事業】

◆講演会

「堺から世界へ—伝統とは挑戦なり—」

日時：9月21日(日)

午後2時～3時30分

講師：四代 田辺竹雲齋 氏、田辺讃良 氏、田辺香來 氏、田辺真人 氏

会場：博物館ホール

参加者数：67人

◆竹かごワークショップ

日時：10月26日(日) 午後2時～4時

講師：四代 田辺竹雲齋 氏、田辺竹雲齋工房の方々

会場：博物館ホール

参加者数：23人

◆展示解説

日時：9月27日(土)、10月12日(日)

各日午後2時～2時30分

参加者数：15人、13人

※茶会「竹に出会う」・ナイトミュージアムについては36頁参照。



ポスター

さかい利品の杜 展示

企画展 「堺に生きた山崎豊子のまなざし—愛用品の数々—」

令和7年4月19日(土)～5月29日(木) (開催日数40日間)

『大地の子』、『華麗なる一族』、『沈まぬ太陽』など多くの人に愛される作品を書いた山崎豊子が堺に住んでいたことを知っている人は、あまりいないのではないのでしょうか。

山崎豊子は大阪・船場の昆布商の娘として生まれましたが、浜寺公園にある水練所に通うなど、幼少期から堺近辺に親しんでいたようです。堺に住み始めた時期がいつかははっきりとはわかりませんが、結婚後の昭和37(1962)年ごろに堺の浜寺に居を構えたようです。

本展では、山崎豊子が暮らした家に保管されている遺品を中心にその業績を追いました。山崎豊子の年譜を中心に、作家となる前の女学校時代の写真、作文、新聞記者時代の先輩でもある作家井上靖からの手紙、色紙等を展示しました。特に、相愛大学から借用した女学校時代の作文については、本資料を発見した荒井真理亜氏(相愛大学教授)が「山崎豊子の文学的出発—新資料から見えてくること—」という題でご講演されました。豊子の文学的素養が垣間見える本資料は、戦前・戦中の女学生たちの雰囲気伝えるという点でも非常に重要な資料といえます。第二章では、作家となった山崎豊子の書斎を中心にご紹介しました。書斎の机とこだわりの椅子を展示室の中心に配置し、本棚をほぼ原寸大で再現したパネルを壁面に置きました。本棚に並んだ書影からは、創作の工夫がにじみ出るようで、来場者は足を止めてじっくり見ていました。第三章では、出版社などさまざまな人をおもてなしした応接室の遺品から、山崎豊子の趣味が感じられるような展示となりました。夫である杉本亀久雄の絵画や華やかな絵付けのティーカップなどから、重厚な作品とは異なる、温かな人柄が窺えました。観覧者数は4,358人。(木下協力：(一社)山崎豊子著作権管理法人、相愛大学、(株)新潮社、(株)文藝春秋)

【主な展示資料】

- ・山崎豊子宛井上靖書簡 (山崎豊子著作権管理法人蔵)
- ・校友会誌『相愛』 (相愛大学図書館蔵)
- ・山崎豊子愛用机 (山崎豊子著作権管理法人蔵)

【関連事業】

◆講演会

「山崎豊子の文学的出発

—新資料から見えてくること—」

日時：5月18日(日) 午後1時30分～3時

講師：荒井真理亜氏(相愛大学教授)

会場：さかい利品の杜 講座室

参加者数：40人

講演会終了後、展示解説

参加者数：44人

◆展示解説

日時：4月29日(火・祝)、5月10日(土)

各日午後1時30分～(20分程度)

参加者数：34人、35人



チラシ



会場風景

企画展 「パリより—与謝野晶子と寛の渡欧体験—」

令和7年7月26日(土)～9月7日(日) (開催日数43日間)

与謝野晶子は、明治45(1912)年5月、先に渡欧していた夫の寛を追ってパリに向かいます。そして二人は約4か月の間、パリを拠点に、イギリス・ドイツ・オーストリア・オランダなどを訪れ、さまざまな芸術文化に触れて感銘を受けます。

パリは「芸術の都」と呼ばれ、世界中から多くの芸術家が集まり活気に溢れていました。晶子と寛は、モンマルトルという歓楽街に下宿し、日本人画家の友人とともに、美術館や博物館、劇場、珈琲店(カフェ)や酒場(キャバレー)に頻繁に出かけています。また、寛の人脈によって、彫刻家のオーギュスト・ロダンや詩人のアンリ・ド・レニエ、エミール・ヴェルハールンといった芸術家と直接面会するなど、貴重な体験を重ねました。晶子はフランスの文芸誌の表紙を飾り、特集記事が掲載されるなど、「日本の女を代表」しているような待遇を受けたと述べています。

特に帰国後の晶子は、渡欧体験をした「新しい女」として日本社会に求められ、婦人雑誌への執筆や学校教育にかかわるなど活動の幅を広げました。

本展は、晶子と寛の人生を大きく変えた渡欧体験を、共著である紀行文『巴里より』や初公開となる寛の「渡欧日記」を中心に、創作ノートや当時の雑誌、絵はがき、思い出の品々を通してたどりました。観覧者数は3,390人。図録発行。(森下)協力：与謝野晶子倶楽部

【主な展示資料】

- ・与謝野寛筆「渡欧日記」 (与謝野光氏旧蔵)
- ・与謝野寛宛・ロダン筆書簡 (与謝野光氏旧蔵)
- ・与謝野晶子愛用の絵具箱 (鞍馬寺蔵)
- ・寛が購入したロート画「風景図」
(公財)阪急文化財団 逸翁美術館蔵)
- ・フランス雑誌に掲載された与謝野晶子の肖像写真(オリジナル) (菊地英之氏蔵)
- ・ロダン宛・与謝野寛筆書簡(複製)
(パリロダン美術館リサーチセンター蔵)

【関連事業】

◆記念対談「与謝野晶子と寛が歩いたパリ」

日時：7月27日(日) 午後2時～3時30分

講師：神野藤昭夫 氏

(跡見学園女子大学名誉教授)

菊地英之 氏 (日仏文化交流研究者)

会場：さかい利品の杜 講座室

参加者数：23人

◆ワークショップ

「ミニ百首屏風をつくってみよう」

日時：8月17日(日)

午前10時30分～／午後2時

講師：根来孝明(当館学芸員)

会場：さかい利品の杜 講座室

参加者数：15人

◆展示解説

日時：8月9日(土)、8月31日(日)

各日午後1時30分～(約30分)

参加者数：10人、34人



チラシ



会場風景

企画展 「世界から堺へ～中世界の栄華をたどる～」

令和8年1月24日(土)～3月15日(日)(開催日数50日間)

中世の堺は、有力な商人たちを中心に営まれた自治都市であり、交易によって栄えた貿易都市として知られています。堺環濠都市遺跡の発掘調査では、建物や道路、濠などの遺構や陶磁器などの遺物が見つかり、中世界の当時の様子をうかがうことができます。

これまでに1400地点を超える調査が実施され、道路や濠、建物など中世界のようすがわかりつつあります。調査では、当時の生活や文化を知ることができる国産陶磁器や輸入陶磁器などの遺物が出土しています。同時にそれらを納めた蔵や商人の店などの遺構が多数見つかり、それらは交易によって栄えた堺の特徴を端的に示すものといえます。

今回の企画展では、交易などによって運ばれてきた物資が集まる海浜部にあたる、現在の大道筋(紀州街道)より西側のエリアを対象としました。現地で見つかった商人の屋敷や蔵、そこに収められた陶磁器などを手掛かりに、当時の景観を復元しました。あわせて、都市中心部などで出土する各地から集められた陶磁器など、堺商人の所有する逸品に焦点を当て、中世界の繁栄の様子を紹介しました。観覧者数は4,076人。(田村)

共催：堺市文化財課

【主な展示資料】

I. 集める・収める―海浜部の倉庫群―

- ・中国褐釉壺 (SKT929地点)
- ・タイ四耳壺 (SKT202地点)
- ・ベトナム焼締長胴瓶 (SKT809地点)
- ・中国青花皿 (SKT809地点)

II. 魅せる―堺商人の逸品―

- ・中国褐釉茶入 (SKT787地点)
- ・ミャンマー黒釉壺 (SKT1029地点)
- ・朝鮮粉青沙器瓶 (SKT1029地点)

III. 大阪・関西万博を彩った茶陶・触れるうつわ

- ・黒織部茶碗 (SKT39地点)
- ・朝鮮茶碗 (SKT84地点)
- ・美濃茶入 (SKT57地点)
- ・志野茶入蓋 (SKT263地点)
- ・志野向付 (SKT387地点)
- ・中国青花鉢・坏 (SKT263地点)

※(SKT〇〇地点):SKTは堺環濠都市遺跡の遺跡略号です。(SKT47地点は堺環濠都市遺跡の第47地点)

【関連事業】

◆学芸講座

「交易と流通からみた中世界」

日時：令和8年2月8日(日)

午後1時～3時30分

①「堺環濠都市遺跡出土の国産・輸入陶磁器」

講師：田村唯史(堺市文化財課学芸員)

②「都市研究からみた中世界」

講師：関周一氏(神戸女子大学教授)

会場：さかい利品の杜 講座室

参加者数：45人

◆展示解説

日時：令和8年2月8日(日)

午後3時50分～(約20分)

講師：花熊祐基(堺市文化財課学芸員)

参加者数：24人



会場風景

空気調和設備改修工事について

当館は、令和7年11月4日から令和8年3月31日まで、空気調和設備改修工事により休館しました。以下、当該工事の概要です。

本工事では、◆空調機器の老朽化にともなう機器更新・新設及び配管の撤去・改修工事、◆空調機器更新にともなう制御機器、計測機器の撤去・改修工事、◆空調機器更新にともなう、冷温水発生機へのガス配管の撤去・改修工事を行いました。

当館では、平成2年度と平成11年度に収蔵庫などの改修工事を行っています。平成11年度の改修工事の詳細については、「収蔵庫の文化財空調について—当館の現場から—」『堺市博物館報』第24号に掲載されています。

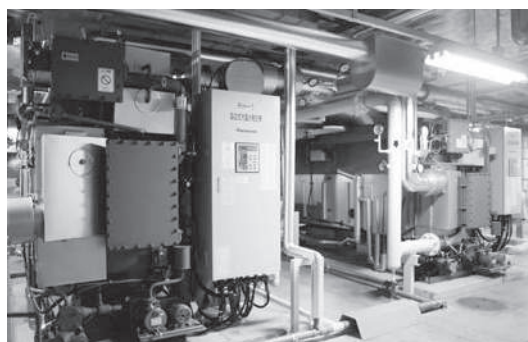
今回の令和7年度工事については、主には平成11年度の工事で設置した機器の老朽化にともなう更新です。本工事では、吸収式冷温水発生機（水の気

化熱を利用し、冷房用の冷水、暖房用の温水を作る機械）2台の機器等を更新しました。既設の設備と同程度の性能を有するものです。また、冷却塔に薬液注入装置を設置し、スライム※1・スケール※2・腐食の防止、レジオネラ属菌の除菌、藻などの繁殖の防止に効果がある処理剤を注入することが可能となり、冷却塔をきれいに保つことができました。加えて、展示場①と収蔵庫②に排出する空気浄化剤として①アルカリ性ガス②硫化水素などの酸性ガスを吸着する黒色活性炭を使用した化学吸着フィルターを選定しました。主な更新機器の概要は以下の表を参照。

資料の安全な保管という観点からも、今後も計画的な機器更新が求められます。

※1 微生物によって作られる泥状、粘質性の物質

※2 水に溶けているマグネシウム等の成分が結晶化して固まったもの



吸収式冷温水発生機



冷却塔

主な更新機器の概要

吸収式冷温水発生機 1	二重効用吸収式冷温水発生機（冷温水同時取出形） 冷凍能力 422KW(120RT) 加熱能力 435KW(374Mcal/h) 冷水量 1,210ℓ/min 温水量 1,210ℓ/min
吸収式冷温水発生機 2	二重効用吸収式冷温水発生機（38%省エネ標準型） 冷凍能力 527KW(150RT) 加熱能力 529KW(455Mcal/h) 冷温水量 1,512ℓ/min
冷却塔	二重効用吸収式冷温水機用 超低騒音型（120RT+150RT用） 120RT用 冷却能力 782.8KW 冷却水量 2,040ℓ/min 150RT用 冷却能力 978.5KW 冷却水量 2,550ℓ/min

その他の更新機器

・冷却水ポンプ ・冷水一次ポンプ ・冷水二次ポンプ ・温水二次ポンプ ・加圧給水ポンプユニット
・膨張タンク（冷水用/温水用） ・空調機（常設展示系統／ロビー系統／特別収蔵庫（1）系統／特別収蔵庫（2）系統／一般収蔵庫（3）・（4）系統／学習室系統） ・レターンファン（常設展示室/特別収蔵庫（1）／一般収蔵庫（3）・（4）） ・給気ファン ・ファンコイルユニット

休館中における常設展示のリニューアル等

令和7年11月4日から令和8年3月31日まで空調と設備改修工事により休館したあいだ、令和7年度事業として次の事業を行いました。

◆常設展示「近世コーナー」のリニューアル

近世における堺の歴史を都市と農村の両側面から通史的に紹介することを目的に、近世コーナーのリニューアルを行いました。

近世コーナーを「都市」と「農村」の二つのパートに区分し、「都市」パートでは、「都市堺の復興」をテーマに大坂夏の陣の前哨戦による都市の焼失から徳川幕府による復興事業、大和川の付け替えなどを紹介しました。一方、「農村」パートでは、「農村の発展」をテーマに17世紀に進められた大規模な新田開発を中心に構成しました。

展示においては、タペストリーや解説パネル等を効果的に用いることで、近世堺の歴史の変遷を多角的に理解いただける展示としました。新たに製作した主な解説パネルは以下の通りです。

- ・年表パネル：近世堺のあゆみ
- ・17世紀の堺における新田開発
- ・幕藩体制下における堺（所領配置図）

◆百舌鳥古墳群シアター新作映像「堺・時空遊覧一空から見る百舌鳥古墳群」の制作

令和7年10月4日からスタートした「おおさか堺バルーン」の運行事業では、大仙公園エリアの賑わいが生まれつつある一方で、天候不順等による運休が余儀なくされるなど、課題も残ります。そのため新たに、百舌鳥古墳群シアターを活用した気球の疑似体験映像を制作しました。

新たな映像は約13分の作品で、既存作品と同様にナレーションは日英、字幕は日英中韓に対応し、聴覚障害者や外国人観光客にもお楽しみいただけるようにしています。

映像の前半は、「おおさか堺バルーン」に乗って上空約100mから古墳を眺める疑似体験映像とし、後半は、CG映像で上空を移動して、仁徳天皇陵古墳や周りの小さな古墳について築造当時と現代の姿を行き来しながら解説しています。

天候不順等で気球に乗れなかった方や搭乗を希望している方には、本映像で疑似体験をすることで今後の搭乗への誘いとし、既に気球に搭乗され

た方には体験を振り返ることで満足度の向上や理解を深めることを目的としています。

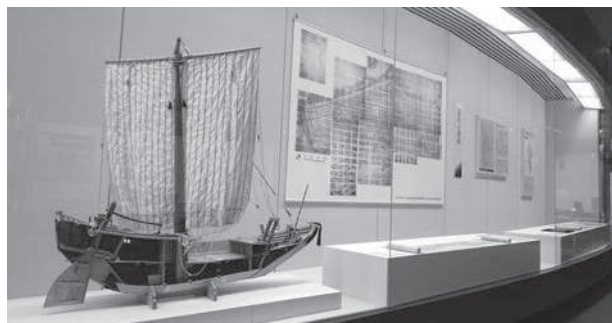
◆「金銅装刀子」等のレプリカを製作

令和7年度に開催した企画展「堺のたからもん」では、國學院大學博物館が所蔵される明治5(1872)年仁徳天皇陵古墳出土の「金銅装刀子」「甲冑金具」とそれらの「包紙(つつみがみ)」を借受け、初公開を行いました(24頁参照)。

展示に引き続き、所蔵者の了解を得て同出土品等のレプリカを製作し、観覧者に仁徳天皇陵古墳の価値理解を深めてもらうため、「古代コーナー」にレプリカの展示コーナーを設置しました(33頁参照)。

◆その他の休館中の事業

- ・出前授業「昔の暮らしを知ってみよう」(37頁参照)
- ・パネル展示 日本は無形文化遺産(41頁参照)
- ・無形文化遺産展示動画作成事業(43頁参照)



常設展示「近世コーナー」のリニューアル



百舌鳥古墳群シアター新作映像の制作



「金銅装刀子」等のレプリカの製作

資料

■堺市博物館

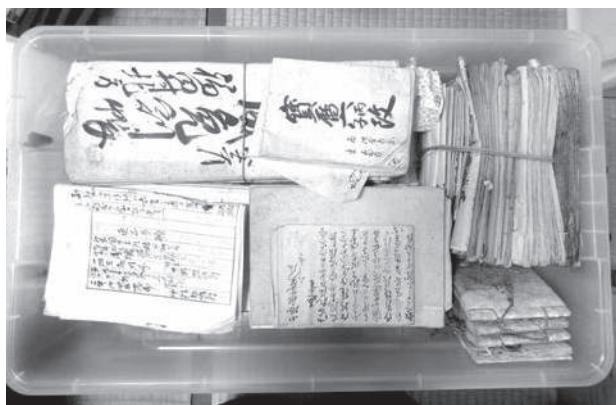
新収蔵資料

【寄贈】

・氏家家資料 木箱等17箱1括 江戸～昭和時代

氏家家は、17世紀半ばの正保3(1646)年以降に福田村(現中区福田)一帯の「大野新田」と呼ばれた約90町の台地を開発した家で、福嶋屋次郎兵衛を祖とします。同家は陶器藩主小出氏と縁戚関係にあり、「統領」とよばれ、福田村一帯が開発された当初の段階では領主に匹敵する得点を得ていました。この開発は、堺市域では夕雲開と並んで、江戸時代の早い段階における商人が主体の新田開発で、氏家家文書はその委細を伝えるものです。

本文書は、『堺市史統編』でも取り上げられていますが、それらは全体のごく一部で、今回確認できた文書類は、氏家家の経営及び福田村を中心とする陶器地区の地域社会などのあり方をよく伝える内容をもっています。



氏家家文書の収納状況

・一般用米穀類購入通帳および写真アルバム 各1点 昭和時代

一般用米穀類購入通帳は、昭和17(1942)年～昭和56(1981)年の「食糧管理法」で定められた通帳。米を買うためには通帳とお金が必要であり、年齢等で決められた配給量以上の米を購入することはできませんでした。本通帳は昭和40(1965)年頃に使用されたものですが、配給割当数量の大部分が空欄で、使用時には制度が形骸化していたと考えられます。写真アルバムは、昭和16(1941)年から戦後にかけて撮影されたもので、堺水族館周辺の写真や戦後すぐの三国丘中学校の写真などが含まれています。

・堺山之口西田呉服店納札資料 87件(3,097点) 大正～昭和時代

堺市堺区の山之口商店街にあった呉服商西田商店に伝来した納札(商店広告)の資料群です。詳細については、本号掲載の矢内一磨「新収蔵資料紹介「堺山之口西田呉服店納札資料」について」を参照。

・宣徳火鉢 2点(1対) 明治時代

火鉢本体の側面に「贈遠山司令官 明治四十五年四月三日 堺聯隊區司令部部員一同」と彫られています。堺連隊区は、明治40(1907)年に創設され、明治44(1911)年に堺市熊野町東に仮移転し、明治45(1912)年に泉北郡向井村に移転した連隊です。遠山氏は明治40～45年に司令官を務めた人物。火鉢は司令官引退時に部下から贈られたものと推測されます。



宣徳火鉢(部分)

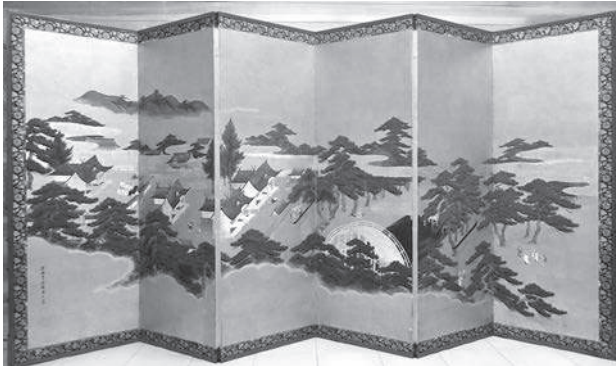
・日本万国博覧会来場記念メダル 1点 昭和45(1970)年

1970年3月15日～9月13日まで大阪府吹田市を会場に、人類の進歩と調和をテーマに開催された日本万国博覧会の会場で販売された来場記念メダルです。

・吉村周山筆「住吉社頭図屏風」 6曲1隻 江戸時代(18世紀)

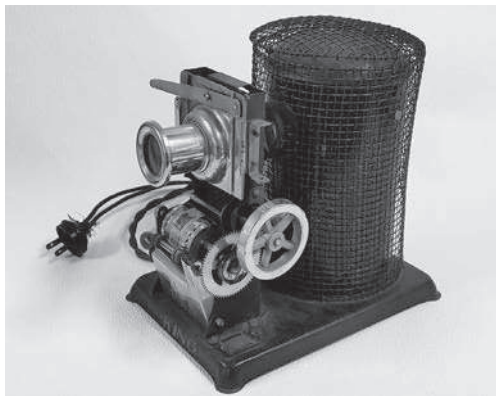
紙本著色 縦124.3cm 横271.6cm

吉村周山(1700～1773)は大阪の人。狩野派絵師の牲川充信に学んで一家を成し、法眼に叙されました。本作には「探興斎法眼周山筆」の署名があります。住吉大社を北から眺め、同社を象徴する太鼓橋(反橋)を画面中央に描いています。



吉村周山筆「住吉社頭図屏風」

・キング家庭活動改良型映写機 1点 昭和時代か
大正～昭和初期にかけて使われた、家庭で映画などの映像を楽しむための簡易な映写機で、玩具映写機と呼ばれるものだと考えられます。短いアニメなどのこども向けフィルムを映写することが多かったようですが、使われなくなった無声映画の切り売りなどもありました。

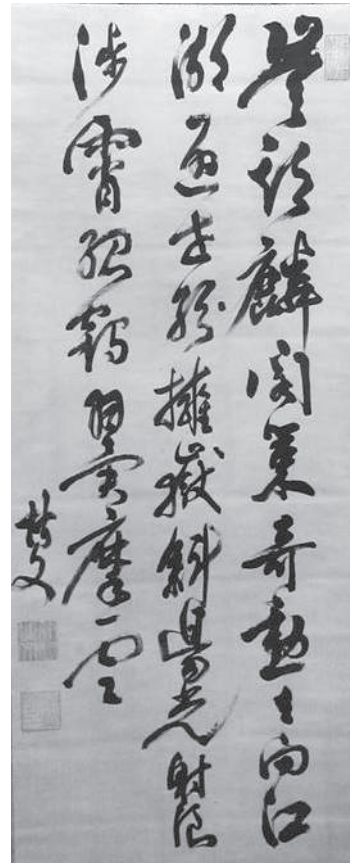


キング家庭活動改良型映写機

・北田豊三郎関係資料 計7点 明治時代

北田豊三郎(1852～1925)は、堺市会議員(明治22(1889)年4～7月、明治25年3月～同26年10月)、堺市長(明治26年10月～同29年2月)のほか、大阪府会議員(明治14～30年、大正4(1915)～6年)、衆議院議員(明治33～35年＝立憲政友会、大正6～9年＝清和倶楽部・正交倶楽部)なども務め、明治・大正期の堺の市政および大阪の地方政界等において大きな役割を果たしました。

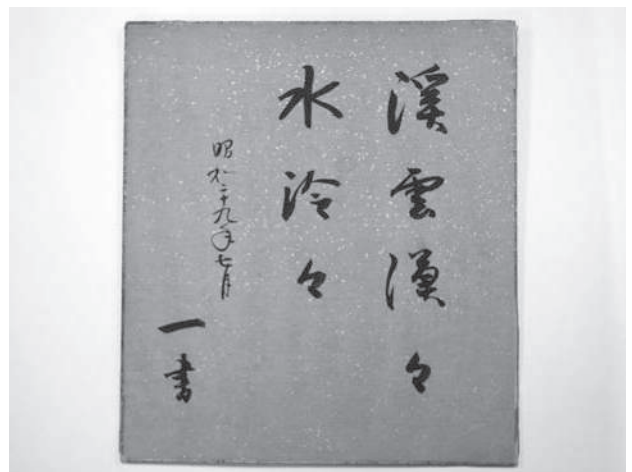
本資料は、北田が直接受贈したか、蒐集した明治時代の政治家による墨蹟4点を中核としています。とくに北田が明治32(1899)年に伊藤博文の来阪時に揮毫してもらった、草書七言絶句「豈期麟閣奇勲策」(写真)は、北田と中央の政治家とのつながりを物語るものとして特筆される資料です。



伊藤博文七言絶句
(北田豊三郎関係資料)

・鈴木貫太郎関係資料 3点 昭和時代

大鳥郡伏尾新田(現在の堺市中区)に生まれ第42代内閣総理大臣を務めた鈴木貫太郎(1868～1948)の長男である、鈴木一が書いた色紙2点と、「在りし日の一」とタイトルのついている挨拶文1点です。「在りし日の一」には父である貫太郎に関する記述もみられます。鈴木一は貫太郎が首相に就任するに際し、山林局長の職を辞し、首相秘書官として終戦まで貫太郎を支えました。



鈴木貫太郎関係資料

整理事業

・大塚山古墳出土品基礎整理

令和2年度より大塚山古墳出土品基礎整理として、当館収蔵の出土品約160箱の種類・数量・状態の把握、また緊急性のある資料の保存処理を（公財）元興寺文化財研究所へ委託し実施しています。

令和7年度は、（公財）朝日新聞文化財団の文化財保護助成を受けて基礎整理を実施し、農工具73点、鏡3点、三尾金具1点、鉤状鉄器1点の実測図作成・写真撮影のほか、襟付短甲の保存処理を行いました。

保存修理

令和7年度は、以下の資料について保存修理および複製製作を行いました。

【保存修理】

・絹本着色「千手観音像」 1幅 江戸時代

令和2年度に寄贈された和泉国日根郡「行基講」関連資料のうちの1点。経年劣化により損傷が著しかったため、解体修理を行いました。

・「緞通図面等近代資料」 計38点 昭和時代
ドライクリーニング、脱酸処理、劣化部分の補修などを行いました。

【複製】

・國學院大學博物館蔵「金銅装刀子」等 一式
古墳時代／令和7（2025）年度複製
レプリカを製作しました（30頁参照）。

IPM（総合的有害生物管理）・資料燻蒸

・生物調査（年間11回48箇所）等

トラップ回収による文化財害虫等のモニタリング、6・10・3月に空中浮遊菌調査を実施しました。

・燻蒸

6月に展示場・収蔵庫・機械室にて、7月にホール・学習室にてエコミューアーFTドライ（殺虫）噴霧による燻蒸を実施。8～9月にかけて、新規受入資料に対して、テントを設置して炭酸ガスによる燻蒸を消毒室にて実施しました。

館外貸出

令和7年度に許可した当館収蔵資料（寄託資料含

む）の貸出8件について、貸出先／展覧会名／資料名を記載しました。☆は寄託資料。

1. 大阪府立近つ飛鳥博物館／令和7年度春季特別展「百済王氏一絶統を紹ぎ興すー」／大阪府陶邑窯跡群出土須恵器（重要文化財） 4点
2. 和泉市久保惣記念美術館／特別展「Over The Wavesー南蛮・万博・ジャポニスムー」／花鳥蒔絵螺鈿洋櫃 1合、花樹鳥獣蒔絵鮫皮貼大洋櫃 1合☆
3. 大阪市立美術館・サントリー美術館／特別展「NEGORO 根来ー赤と黒のうるしー」／漆塗太鼓形酒筒（重要文化財） 1基、朱漆塗角切折敷 5枚
4. 和歌山県立博物館／特別展「紀伊徳川家の威風」／洛中洛外図屏風 6曲1双、西海航路図屏風 6曲1双のうち右隻、徳川家光画像 1幅
5. 豊田市博物館／企画展「伊能忠敬ー新しい地図の世界へー」／日本図・世界図屏風（堺市指定文化財） 4曲1双☆
6. 国立民族学博物館／企画展「ドルポー西ネパール高地のチベット世界」／河口慧海日記 1件☆
7. 岐阜県美術館／特別展「ーモンスーンに吹かれたようにー大移動と交流のアフリカーアジアの現代美術」／相撲遊楽図屏風 6曲1隻、異国人物図巻 2巻、南蛮屏風 6曲1双
8. 兵庫陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、東京富士美術館／「This is SUEKIー古代のカタチ、無限大！」／大阪府陶邑窯跡群出土 須恵器（重要文化財） 3点

特別利用

特別利用は堺市博物館条例第5条に基づき、資料の熟覧・模写・模造・撮影（原板貸出を含む）等、申請に対して許可を行っています。令和7年度の利用申請は188件（有料35件、庁内12件、HP掲載画像の利用141件）でした。

第9回「ふね遺産」認定（令和7年9月24日付）

・「元禄菱垣廻船模型」（堺市指定有形文化財）
（公社）日本船舶海洋工学会によって、元禄5（1692）年に奉納された現存する最も古い弁才船として、「ふね遺産第56号」に認定されました。

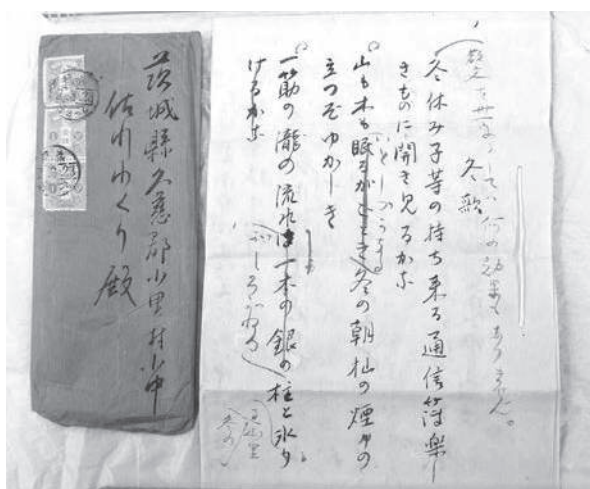
■さかい利晶の杜

新収蔵資料

【寄贈】

- ・与謝野晶子筆、佐川わくり宛書簡ほか 14通
大正～昭和時代

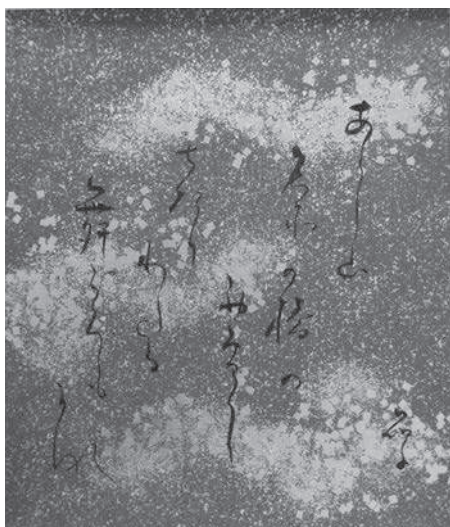
晶子が佐川幸太郎（わくり 1881～1934）に宛てた書簡3通と、文化人たちが佐川に宛てた書簡11通。晶子の書簡は、短歌の添削原稿。その他の書簡やハガキは、児童文学者の巖谷小波（1870～1933）、日本画家の石塚省三（1895～没年不詳）、徳富蘇峰（1863～1957）の秘書の並木仙太郎（生年不詳～1952）が佐川からの照会に回答したものなど。



佐川わくり宛書簡

- ・与謝野晶子自筆歌色紙（あらし山） 1枚
明治～昭和時代

「あらし山名所の橋の初雪に七たりわたる舞ごろもかな 晶子」（『夢の華』収録）
上記の歌一首が書かれた色紙。



与謝野晶子自筆歌色紙（あらし山）

- ・与謝野晶子歌短冊（かまくらや） 1枚
大正～昭和時代

「かまくらや御仏なれど釈迦牟尼は美男におはす夏木立かな 晶子」（『明星』初出）



与謝野晶子歌短冊
（かまくらや）

保存修理

【修理】

- ・与謝野寛自筆歌掛軸（わかき人） 1幅
昭和9（1934）年
本紙の保存処理と裏打ちの仕替えを行いました。

【複製】

- ・与謝野晶子著『草の夢』 1冊
大正11（1922）年／令和7（2025）年度複製
与謝野晶子記念館の常設展示「晶子の装幀」コーナーにて、開館当初から実物を展示していましたが、この度複製を製作し、あらたに函も製作しました。

- ・堺市博物館蔵「千利休画像」 1幅
江戸時代／令和7（2025）年度複製
複製を製作しました。今後、さかい利晶の杜の常設展示「千利休茶の湯館」の展示資料として活用します。

普及

体験学習会

○博物館で体験しよう

- A 4月20日(日) ①午前10時～12時、
②午後1時～3時

参加者数：60人(①27人、②33人)

- B 11月2日(日) ①午前10時～12時、
②午後1時～3時

参加者数：108人(①33人、②75人)

○古代の服を着てみよう

- 5月5日(月・祝) 午前10時～12時、午後1時～3時

参加者数：89人

○プラバンで古墳キーホルダーを作ろう

- A 6月14日(土) ①午前10時～12時、
②午後1時～3時

参加者数：53人(①22人、②31人)

- B 7月30日(水) ①午前10時～12時、
②午後1時～3時

参加者数：117人(①50人、②67人)

○ダンボールで仁徳天皇陵古墳を作ろう

- A 7月19日(土) 午後1時～4時

参加者数：42人

- B 8月3日(日) 午後1時～4時

参加者数：42人

○ハニワを作ろう

- A 7月21日(月・祝) 午後1時～4時

参加者数：39人

- B 8月9日(土) 午後1時～4時

参加者数：36人

○勾玉を作ろう

- A 7月27日(日) ①午前10時～12時、
②午後1時～4時

参加者数：66人(①34人、②32人)

- B 8月16日(土) ①午前10時～12時、
②午後1時～4時

参加者数：63人(①30人、②33人)

○厚紙で古代の冑を作ろう

- 8月11日(月・祝) 午後1時～4時

参加者数：31人

○勾玉ストラップを作ろう

- 9月13日(土) ①午前10時～12時、
②午後1時～4時

参加者数：88人(①30人、②58人)

○色付き勾玉を作ろう

- 10月5日(日) ①午前10時～12時、
②午後1時～4時

参加者数：57人(①28人、②29人)

- しめ縄作りを体験しようー勾玉や古墳で飾ろうー
(会場：みはら歴史博物館)

- 12月13日(土) ①午前10時～12時、
②午後1時～4時

参加者数：67人(①29人、②38人)

- むかしの道具・遊びを体験しよう
(会場：みはら歴史博物館)

- A 令和8年1月24日(土) 午後1時～4時

参加者数：124人

- B 令和8年2月22日(日) 午後1時～4時

参加者数：108人



石臼体験



ぶんぶんゴマ

サンデートーク

4月13日(日)から11月2日(日)までの毎週日曜日に、学芸員が館内の展示資料について解説を行いました。全30回、のべ参加者は550人でした。

ミュージアム・パス&スタンプラリー2025

平成26年度より実施。令和7年度は未就学児・小・中学生を対象としました。パスを持参した方は、本人とその保護者1人が何度でも下記の参加施設に無料で入場できます。スタンプラリーも実施。

期間：7月19日(土)～8月31日(日)

配布数：約4万3,000枚

参加施設：堺市博物館、堺市立みはら歴史博物館、さかい利品の杜、百舌鳥古墳群ビジターセンター、堺 アルフォンス・ミュシャ館、堺伝匠館、シマノ自転車博物館、堺市立町家歴史館(鉄炮鍛冶屋敷・山口家住宅・清学院)、黒姫山古墳ガイドンス施設、小谷城郷土館 合計12館

参加賞：オリジナル缶バッジ446個贈呈(スタンプ6施設分・500個限定)

認定証と記念品300個（スタンプ全12施設分・300個限定）

記念品は、堺ライオンズクラブに協賛いただき堺市博物館オリジナルグッズを購入・寄贈いただいたほか、各参加施設より提供を受けました。各館を通じたのべ参加者は、未就学児1,245人、小学生6,031人、中学生247人、保護者5,478人、当館へ入館した方は未就学児231人、小学生848人、中学生42人、保護者828人でした。

中堅教諭等資質向上研修（社会体験研修）

勤務年数約8年の学校教諭を対象に行う博物館業務に関する研修。開館準備、シアター視聴後に受付手伝い、展示場見学、学芸員の講話、館内空調について（講義）、展示解説の説明、体験学習会に向けて準備作業などを行いました。

令和7年度は①7月22日（火）・23日（水）に8人、②7月24日（木）・25日（金）に8人、③7月30日（水）・31日（木）に8人が参加しました。

博物館実習

令和7年度は8月5日（火）～8日（金）、及び11日（月・祝）の5日間、18大学から19人を受け入れました。
受入大学：大阪国際大学、関西学院大学、北里大学、京都外国語大学、京都芸術大学、近畿大学、神戸大学、神戸松蔭大学、神戸女子大学、筑波大学、帝塚山学院大学、同志社女子大学、奈良大学、奈良女子大学、佛教大学、大和大学、立命館大学、龍谷大学

カリキュラム：

- 〔1日目〕 受付・オリエンテーション／堺市博物館の概要について／展示とシアター見学／館長による講話／施設のバックヤード等の見学／仁徳天皇陵拝所とビジターセンター等の見学／堺市博物館の展示・収蔵環境とIPMについて
- 〔2日目〕 お茶室見学／美術資料の取り扱い／ユネスコ無形文化遺産と堺市／歴史資料の取り扱い
- 〔3日目〕 さかい利品の杜見学／考古資料の取り扱い／当館の普及・広報活動について
- 〔4日目〕 当館の展示活動について／普及事業の補助／発送準備、データ入力・資料整理など／民俗資料の取り扱い
- 〔5日目〕 普及事業（厚紙で古代の冑を作ろう）の準備／発送準備、データ入力・資料整理など／実習のまとめ、感想、ふりかえり

茶会「竹に会う」

9月20日（土）から11月3日（月・祝）まで、特別展「堺の竹工芸家たち—前田竹房斎と田辺竹雲斎—」（会場：堺市博物館）と「四代田辺竹雲斎展」（会場：堺市茶室「伸庵」）を開催しました（主催：堺市文化課）。会期中の休館日、四代田辺竹雲斎のインスタレーションが展示された伸庵の茶室において、竹にちなむ茶道具を取り合わせた茶会を開催しました。茶会の後には、文化課の担当学芸員が特別展を案内しました（25頁参照）。

日時：9月29日（月）、10月25日（土）

第1席 午前10時30分～12時

第2席 午後1時～2時30分

第3席 午後2時30分～4時

特別協力：四代田辺竹雲斎

監修：NPO法人 和の学校

主催：堺市

参加費：1,000円 ※特別展観覧料別途

参加者数：43人



茶会「竹に会う」

ナイトミュージアム

特別展「堺の竹工芸家たち—前田竹房斎と田辺竹雲斎—」（会場：堺市博物館）と同時開催「四代田辺竹雲斎展」（会場：堺市茶室「伸庵」）の会期中の3日間、夜間開館を行いました。茶室「伸庵」ではライトアップを行い、夜の闇と照明の中で、アプローチの竹林や四代田辺竹雲斎作品を楽しんでいただきました（25頁参照）。

なお、この3日間は周辺施設のご協力のもと、秋季夜間特別開園中の日本庭園において、特別展の半券提示による入園料2割引サービスを実施していただきました。こふん前cafe IROHAやICOROBA Cafe Terraceには営業時間を21時まで延長していただきました。

日時：10月3日（金）～5日（日）

午後9時まで開館（最終入館は午後8時30分まで）

照明：有限会社ライズ

来場者数：10月3日（金） 88人、4日（土） 106人、

5日（日） 150人



ナイトミュージアム

堺市博物館フォーラム

「ミュージアムでの教育活動 こどもたちに何を学んでもらうのか？」

平成14(2002)年度以来、小・中学生を対象とした「体験学習会」を開催してきました。堺市博物館だけでなく、日本各地に数多くあるミュージアムでは、こどもたちにさまざまな学習の機会を提供しています。このフォーラムでは、ミュージアム教育に携わる4人の専門家が集い、さまざまな事例を報告した後、座談会により意見交換を行い、ミュージアムを場とする教育活動の可能性を探りました。

報告①「学校や家庭にとって魅力ある博物館とは？」

遠藤浩也(当館職員、元教員)

報告②「堺市博物館の展示における教育活動」

橘泉(当館学芸員)

報告③「こどもにとって、美術館は行きにくい？
行きやすい？」

鬼本佳代子氏(国立国際美術館研究員)

報告④「生きた昆虫を中心にした伊丹市昆虫館の
教育活動」

坂本昇氏(伊丹市昆虫館館長)

座談会「ミュージアムでの教育活動

こどもたちに何を学んでもらうのか？」

司会：宇野千代子(当館学芸員)

日時：10月25日(土) 午後2時～4時30分

会場：博物館ホール

参加者数：31人



チラシ

「日本と世界が会えるまち・堺 2025」プロジェクト

本プロジェクトは、平成25年度から始まった大阪大学歴史教育研究会との共催事業(協力：堺ユネスコ協会、NPO法人堺なんや衆、高大連携歴史教育研究会)で中高生等々のグループによる歴史研究発表会です。堺の歴史・文化をはじめ、日本や世界の歴史についても学び・知り・理解する楽しさを体感する機会となるよう、研究発表事前相談会と研究発表会を実施しています。

令和7年度は中学校が5校5グループ、高校が4校6グループの応募があり、発表会は11月16日(日)に大阪大学箕面キャンパス大阪外国語大学記念ホールで行い、対面およびZoomによるオンラインのハイブリッド形式にて開催しました。

当プロジェクトから「2025年度 高校生の部最優秀賞 帝塚山学院高等学校歴史研究部 アン・ブラザーズ」が令和8年7月に開催された「令和8年度 全国高等学校社会科学・郷土研究発表大会」に出場しました。

出前授業「むかしの暮らしを知ってみよう」

令和8年1月15日(木)～2月26日(木)に、堺市内の小学校37校(39コマ)、2,134人に対して、出前授業を行いました。明治から現代にかけての暮らしや、使われる道具の変化について紹介し、「むかしの遊び」体験もしました。

出張先小学校：赤坂台、上野芝、英彰、家原寺、鳳、神石、北八下、錦綾、光竜寺、さつき野学園、少林寺、新金岡東、泉北高倉、大仙、津久野、登美丘南、中百舌鳥、西陶器、西百舌鳥、上神谷、野田、土師、八田荘西、浜寺石津、浜寺東、はるみ、日置荘西、東陶器、平岡、深井西、福泉上、三国丘、宮園、向丘、八下西、熊野、若松台

第42回古文書講習会

古文書を通じて地域の歴史を勉強したい方を対象に、主に近世・近代の古文書の読解と解釈の講座を開催しました。本講習会は、歴史に親しみながら堺市域に関する史料等について理解を深めていただくことを目的としています。なお教材は、江戸時代の堺の地誌などのほか、米屋甚兵衛家文書・開口神社文書・美木多和田家文書など堺に関連した古文書のコピーを使用しました。

日時：令和8年2月28日（土）、3月1日（日）の2日間の
午前10～12時、午後1時～3時
講師：島田克彦氏（桃山学院大学教授）
渋谷一成・阪東寛之・下原あゆみ（当館学芸員）
受講者：20人
会場：さかい利品の杜

オンラインミュージアム

どこからでも当館の活動をご覧いただけるよう、YouTube上での動画配信を行いました。

令和7年度は以下のとおり

- ・無形文化遺産展示動画として作製した百舌鳥八幡宮ふとん太鼓に関する新作動画3本を、令和8年4月1日からYouTube上で公開しました。（43頁参照）。

ミュージアムグッズ

令和7年度は、サコッシュ（円筒埴輪）、ハンカチ（犬形埴輪）、一筆箋（堺鉄砲の技と美）、エコファイル（鉄砲足輕の装備イラスト・岸谷勢蔵画「堺の町並み」）を新たに作製しました。

堺市博物館共同研究

「中世界における歴史文化に関する学際的研究会」

令和7年度は以下の研究会を開催しました。

第1回 8月31日（日） 博物館ホール

「堺商人と大徳寺派、遣明船」

岡本真氏（東京大学准教授）

「堺衆と武家権力」 天野忠幸氏（天理大学教授）

第2回 10月19日（日） 博物館ホール

「足利・織田両権力における今井宗久～『今井宗久書札留』を基本資料として～」

吉田紺碧氏（あわら市郷土歴史資料館学芸員）

「中近世移行期の堺の自治構造について」

藤本誉博氏（今治城学芸員）

第3回 12月21日（日） さかい利品の杜 講座室
環濠都市現地見学会

續紳一郎（堺市文化財課学芸員）

「中近世港町と港湾の空間構造」

山村亜希氏（京都大学教授）

第4回 令和8年1月25日（日） 堺市役所第一特別会議室

「高野山年貢経由地としての堺」

綿貫友子氏（神戸大学教授）

「元亀3年本願寺実悟の堺紀行をめぐって」

大澤研一氏（大阪歴史博物館館長）

第5回 令和8年2月15日（日） 堺市役所本館第1会議室

歴史史料分科会報告

「蕉軒日録から読み解く中世都市堺」

渋谷一成（当館学芸員）

美術分科会報告

「『住吉祭礼図屏風』にみる堺のまち

ーこれまでの総括ー」 宇野千代子（当館学芸員）

「『住吉祭礼図屏風』をもとに作成した

堺のまちの3Dメタバース空間について」

川地七海氏（滋賀県立大学学部生）

仏教美術分科会報告

「堺・長泉寺本尊のCTスキャン撮影および嵯峨・清涼寺梵鐘の立体3D計測について」

堀川亜由美（堺市文化財課学芸員）

考古分科会報告

「堺環濠都市遺跡データベース構築の成果」

佐藤亜聖氏（滋賀県立大学教授）・瀬戸哲也氏（元興寺文化財研究所研究員）・海邊博史（当館学芸員）・田村唯史（堺市文化財課学芸員）・相馬勇介（堺市文化財課学芸員）

学芸員のアウトリーチ活動

外部機関からの依頼により、当館学芸員がアウトリーチ活動を実施。令和7年度は以下のとおり。

・5月19日（月）

矢内一磨「驚きの堺オリジナル 堺のオモシロ歴史30話」（堺商工会議所）

・5月25日（日）

矢内一磨「与謝野晶子の生い立ちについて」（堺俳人クラブ）

・6月6日（金）

海邊博史「仁徳天皇陵古墳の調査について」（大阪府民カレッジ（北野田校））

・7月3日（木）

矢内一磨「博物館の楽しみ方」（堺自由の泉大学「令和7年度歴史探訪・考古学講座」）

・7月22日（火）

十河良和「堺市博物館企画展「堺のたからもん」についてー仁徳天皇陵古墳 新発見の副葬品を中心にー」（堺ライオンズクラブ「7月例会卓話」）

・7月25日（金）

渋谷一成「開口神社・念仏寺の神仏分離（第1回）」（令和7年度開口神社歴史勉強会）

・7月27日（日）

橘泉「堺市博物館と企画展「堺のたからもん」

- について」(八尾市立しおんじやま古墳学習館「しおんじやま夏のおすすめ!ミュージアム」しおんじやま学び場)」
- ・7月27日(日)
矢内一磨「堺市茶室「黄梅庵」「伸庵」及び堺の茶人について」(堺観光ボランティア協会)
 - ・8月9日(土)
矢内一磨「民俗研究の先人が記録した堺の町と暮らし」(堺民俗会)
 - ・9月17日(水)
海邊博史「陶邑と須恵器について」(なわて高齢者大学)
 - ・9月30日(火)
十河良和・橘泉「百舌鳥古墳群について」(シニア自然大学校)
 - ・11月5日(水)
矢内一磨「読書会「井原西鶴」を読む」(堺市立中図書館)
 - ・11月6日(木)
矢内一磨「明治時代の堺の暮らしー与謝野晶子の随筆よりー」(堺ロータリークラブ)
 - ・11月16日(日)
矢内一磨「中区陶器のくらしー兒山家をめぐってー」(中図書館「堺歴史文化市民講座」)
 - ・11月20日(木)
矢内一磨「いのちの文化史」(堺自由の泉大学「令和7年度歴史探訪・考古学講座」)
 - ・11月26日(水)
根来孝明「堺の歴史」(曾呂利「ええとこ堺寄席」)
 - ・11月29日(土)
十河良和「大きさ・形・副葬品から読み解く世界遺産百舌鳥・古市古墳群」(堺市「大阪・関西万博開催記念 古墳サミット」)
 - ・11月29日(土)
宇野千代子「三好一族と茶の湯ー長慶の弟・実休を中心としてー」(堺・ちくちく会)
 - ・11月30日(日)
森下明穂「与謝野晶子について」(堺俳人クラブ)
 - ・12月4日(木)
北林千明「日本の祭りの楽しみ方」(堺自由の泉大学「令和7年度歴史探訪・考古学講座」)
 - ・12月18日(木)
阪東寛之「展覧会の楽しみ方」(堺自由の泉大学「令和7年度歴史探訪・考古学講座」)
 - ・12月19日(金)
十河良和「百舌鳥古墳群における中小古墳の発掘調査」(はびきの市民大学)
 - ・12月20日(土)
森下明穂「与謝野晶子ー美しい本の世界へー」(明星研究会シンポジウム)
 - ・令和8年1月9日(金)
海邊博史「仁徳天皇陵古墳の発掘調査」(はびきの市民大学)
 - ・令和8年1月15日(木)
橘泉「古墳を訪ねる楽しみ」(堺自由の泉大学「令和7年度歴史探訪・考古学講座」)
 - ・令和8年1月29日(木)
渋谷一成「堺の歴史と文化」(大阪平野ロータリークラブ)
 - ・令和8年1月31日(土)
渋谷一成・下原あゆみ「南区の中世ー地域ゆかりの古文書からー」(堺市立南図書館)
 - ・令和8年2月1日(日)
北林千明・阪東寛之「北区の歴史を紐解くー宗教文化、祭礼を中心にー」(堺市立北図書館「令和7年度堺歴史文化市民講座」)
 - ・令和8年2月5日(木)
下原あゆみ「中世の歴史を楽しむ」(堺自由の泉大学「令和7年度歴史探訪・考古学講座」)
 - ・令和8年2月10日(火)
矢内一磨「昭和100年ー昭和の堺をふりかえるー」(堺自由の泉大学「令和7年度一般教養講座」)
 - ・令和8年2月12日(木)
海邊博史「仁徳天皇陵古墳について」(大阪府神社庁第10支部研修会「堺の歴史と文化ー仁徳天皇陵古墳と利晶の杜を中心にー」)
 - ・令和8年2月12日(木)
根来孝明「堺のまちと茶の湯の歴史」(大阪府神社庁第10支部研修会「堺の歴史と文化ー仁徳天皇陵古墳と利晶の杜を中心にー」)
 - ・令和8年2月12日(木)
木下響子「近代における堺の文学と与謝野晶子」(大阪府神社庁第10支部研修会「堺の歴史と文化ー仁徳天皇陵古墳と利晶の杜を中心にー」)
 - ・令和8年2月19日(木)
宇野千代子「屏風絵をみる楽しみ」(堺自由の泉大学「令和7年度歴史探訪・考古学講座」)
 - ・令和8年2月20日(金)
渋谷一成「開口神社の明治から昭和戦前期(第2回)」(令和7年度開口神社歴史勉強会)
 - ・令和8年2月22日(日)
矢内一磨「「堺市第一次疎開地区記録」からみる堺区の歴史 堺市指定文化財記念」(堺市立中央図書館)

- ・令和8年2月28日（土）
十河良和「明治5年発見の前方部埋葬施設について」（関西大学東京センター「新発見 仁徳天皇陵古墳の副葬品―その価値と意義を探る―」）
- ・令和8年3月6日（金）
橘泉「百舌鳥古墳群の魅力を知る」（堺市東文化会館「ひがし文芸・歴史セミナー 堺の古墳時代を知ろう」）
- ・令和8年3月6日（金）
海邊博史「仁徳天皇陵古墳の新発見」（堺市東文化会館「ひがし文芸・歴史セミナー 堺の古墳時代を知ろう」）
- ・令和8年3月18日（水）
十河良和「日置荘西町窯跡群と河内大塚山古墳」（堺市東文化会館「ひがし文芸・歴史セミナー 堺の古墳時代を知ろう」）
- ・令和8年3月18日（水）
肥田翔子「黒姫山古墳と古墳時代の丹比地域」（堺市東文化会館「ひがし文芸・歴史セミナー 堺の古墳時代を知ろう」）
- ・令和8年3月19日（木）
海邊博史「考古学を楽しむ―江戸時代のペット墓―」（堺自由の泉大学「令和7年度歴史探訪・考古学講座」）
- ・令和8年3月21日（土）
宇野千代子「武将たちと茶の湯―芥川城の時代を中心に―」（高槻市「特別歴史講座」）

無形文化遺産の普及促進事業

※は会場：博物館ホール

◆パネル展示 日本の無形文化遺産

会期：6月3日（火）～11月3日（月・祝）

会場：堺市博物館 文化遺産展示室

「2025大阪・関西万博」を契機に、国内外の来館者に日本の無形文化遺産について理解していただくために、ユネスコ「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載の日本の無形文化遺産（23件）をパネルで紹介しました。

※空調設備改修工事のための長期休館中に市内施設にて出張展示（一部）をしました。

①会期：令和8年1月14日（水）～27日（火）

会場：アリオ鳳

観覧者数：約500人

②会期：令和8年2月5日（木）～3月1日（日）

会場：堺市立みはら歴史博物館

観覧者数：2,562人

③会期：令和8年3月5日（木）～15日（日）

会場：イオンモール堺鉄砲町

観覧者数：約200人

④会期：令和8年3月17日（火）～29日（日）

会場：堺市役所本館1階エントランスホール

観覧者数：約500人



【関連事業】

◇堺市博物館サンデートーク

日時：9月21日（日）

講師：山本倫未氏（IRCIアソシエイトフェロー）

参加者数：約20人

来館者に向けて展示解説をするサンデートークに、講師に山本倫未氏をお招きし、パネル展示スペースにて「ユネスコ無形文化遺産のいま」と題したトークをしていただきました。IRCIの活動、ユネスコ無形文化遺産保護条約の代表リストへの登録手続きや、同条約に基づく政府間委員会の役

割などについて簡潔に説明していただきました。無形文化遺産と気候変動を含むSDGsとのかかわりなども取り入れた新鮮な切り口と内容で、参加者は質問したり、感想を話したりして、興味をもってトークを聞きました。



◆無形文化遺産理解セミナー・ワークショップ 中国太極拳の魅力にふれあおう※

日時：6月29日（日）午後1時30分～3時30分

講師：陳静氏（武術家 陳静武術太極拳協会会長）

参加者数：63人

太極拳は中国武術の一派で健康増進に効果があるスポーツとしてよく知られ、日本でも学んで、実践している人が多くいます。太極拳の身体に関する認識、運動の特徴から、中国道教と儒教の思想や伝統中国医学の影響をうかがうことができます。中国の太極拳は令和2（2020）年にユネスコ「人類の無形文化遺産の代表一覧表」に記載されました。

講師の陳静先生は8才から太極拳をはじめとする武術を習い始め、中国及び世界武術選手権大会優勝経験を持ち、現在では太極拳の普及や国際交流に関わる活動に勤まられています。セミナーでは、17世紀に中国河南省陳家溝（ちんかこう）で形成、体系化された太極拳の伝承や流派、内包される哲学思想、動きの特徴、現代人の心身の調和の構築への働きなどについて、ご自身の経験を交えながら紹介されました。ワークショップでは、太極拳にちなんだ伝統の健康拳法の「八段錦（はちだんきん）」と講師創作の「静太極拳」を見学した後、講師の指導の下、みんなで「八段錦」を実践しました。

初めての参加者も多く、太極拳の心身健康ケアの効果を体感しました。また、太極拳の歴史や文化的価値及び伝承を紹介する無形文化遺産の視点も好評でした。



無形文化遺産理解セミナー・ワークショップのチラシ

◆無形文化遺産理解セミナー

ユネスコ無形文化遺産「伝統的酒造り」

一次世代へ受け継ぐ日本の文化—

日時：9月27日（土）午後1時30分～3時

講師：田中宏典 氏

（文化庁参事官（生活文化連携担当）付専門官）

主催：堺市・IRCI

会場：博物館ホール

参加者数：50人

「伝統的酒造り」は令和6（2024）年12月にユネスコ無形文化遺産の代表一覧表に記載。

酒造りは古くから日本に根差してきた食文化のひとつです。500年以上前に原型が確立した「伝統的酒造り」のわぎは、「こうじ」の使用という共通の特色を持ちながら、日本各地においてそれぞれの気候風土に応じて発展し、日本酒、焼酎、泡盛、みりんなどの製造に受け継がれてきました。

「伝統的酒造り」は、伝統的なこうじ菌を用いて、杜氏、蔵人等が経験に基づき築き上げてきた酒造りの技術であり、長い歴史の中で、しなやかな感性と優れた技術で磨き上げられてきた日本が誇る文化で、日本各地の自然の特徴や気候風土を反映する形で発展を遂げてきました。

「伝統的酒造り」のわぎで醸される酒は、儀礼や祭礼行事など、日本の社会的・文化的行事の中で不可欠な役割を果たします。

セミナー講師の田中宏典氏は、「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産登録、および酒の歴史・文化とその独自性を中心にご講演していただきました。加えて日本の文化財保護法における文化財体系や、食文化の登録状況、ユネスコ無形文化遺産保護条約の枠組みや登録基準といった施策・制度面についても取り上げていただきました。「生活文化」に属する「食文化」である「お酒」というとても身近なテーマだけに、参加者もお酒の歴史

等について積極的に質問しました。

◆無形文化遺産理解セミナー

メンテナンスやりサイクルから読み解く伝統木造建築の歴史—森を守り、生活文化を伝承させたサステイナブルな技術※

日時：10月12日（日）午後1時30分～2時30分

講師：中村琢巳 氏（東北工業大学教授）

協力：IRCI

参加者数：41人

「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」は令和2（2020）年にユネスコ無形文化遺産の代表一覧表に記載されました。「建造物修理」、「建造物木工」、「檜皮葺・柿葺」、「茅葺」、「檜皮採取」、「屋根板製作」、「茅採取」、「建造物装飾」、「建造物彩色」、「建造物漆塗」、「屋根瓦葺（本瓦葺）」、「左官（日本壁）」、「建具製作」、「畳製作」、「装飾修理技術」、「日本産漆生産・精製」、「縁付金箔製造」など17件の国選定保存技術から構成されます。（当時）

伝統建築工匠の技は建築を新築する技術とともに、「守り伝えた技術」でもあることが大きな特徴と言えます。木や土、草、竹といった自然素材を組み立てて、美しく仕上げる日本の伝統木造建築は、メンテナンスやりサイクルを繰り返し、ながく使いつづけることを高度に洗練化させたサステイナブルな技術です。セミナーでは、豊富な歴史資料と調査事例に基づいて、その技術やデザインの特徴を、メンテナンスやりサイクルのしやすさ、継ぎ接ぎの美といった「守り伝えた技術」の視点から読み解きました。

さらに、伝統木造建築を守り続けることは、大工や屋根屋、左官、建具屋といった諸職の技術継承に加えて、森林資源などの自然環境の保全、地域固有な生活文化（住まい方）の伝承といった多彩な無形文化財と密接な関わりをもちます。木材や茅の備え、資料に記録された屋敷に出入りする職人衆の日常の仕事、年中行事ごとの掃除と飾り付けなど暮らしの中に伝承されてきたメンテナンス、古材を活かした茶室、町家の移築、曳家など歴史の中の「古民家再生」の事例を通して、伝統建築を守り伝えた歴史を紹介しました。

台風などの被害で家を修理した際、職人不足に痛感した、どう解消できるかと参加者からの質問にたいして、中村氏は改めて伝統工法によるメンテナンスや修理の輪を広げることが伝統技術の継承に役立つと強調されました。難しいテーマを分かり

やすく解説してくださって、とても興味深かったとの感想も聞きました。



無形文化遺産理解セミナーのチラシ

◆堺の無形文化遺産 堺緞通

平成18(2006)年に「独自の発展を遂げた緞通の手織技術として貴重」として、大阪府の無形民俗文化財(民俗技術)に指定され、堺式手織緞通技術保存協会を中心に技術の保存と伝承が行われています。

◇無形文化遺産理解ワークショップ

ミニ緞通を織ってみよう

日時：8月2日(土) 午後1時30分～4時

講師：堺式手織緞通技術保存協会・当館学芸員

参加者数：18人

常設展の大型織機を使った解説映像をみて、堺緞通の発展や技術の独自性を学んでから、簡易器具を使って、ミニ緞通の手織りに挑戦しました。参加者は各々のオリジナル作品を仕上げました。

◇「堺緞通」に関わるアウトリーチ事業

・ワークショップ「ミニ緞通を織ってみよう」

日時：①4月27日(日)、②6月15日(日)

各日午後1時30分～4時

会場：堺 アルフォンス・ミュシャ館

主催：堺 アルフォンス・ミュシャ館

参加者数：①15人、②14人

特別展「ミュシャ 謎の絵画」において、堺緞通の技術で再現した名画「クオ・ヴァディス」のタペストリーが展示された関連で開催。当館職員は堺緞通とその織り方を解説する講師として協力しました。

・「堺緞通の手織り体験」

「堺の伝統産業を体験する」(主催：ライオンズクラブ国際協会335-B地区7R1Z、協力：堺ユネスコ協会)

①日時：9月23(火・祝) 午前10時～午後3時

会場：大仙公園 【堺ユネスコ協会に協力】

参加者数：約250人

②日時：11月16日(日)

午前10時～12時、午後1時～3時

会場：堺市立みはら歴史博物館

参加者数：75人



◆無形文化遺産展示動画製作事業

来館者の理解促進とふとん太鼓の普及を目的に、堺市内の無形文化遺産である「百舌鳥八幡宮月見祭」のふとん太鼓に関する映像を作製しました。令和8年4月1日から展示場内宗教文化コーナーのふとん太鼓2基の間にモニターを設置し、上映しています。

・堺の無形文化遺産「百舌鳥八幡宮月見祭」Vol.1 華麗～百舌鳥八幡宮月見祭ふとん太鼓の魅力～(5分47秒)

令和7年10月4日(土)に堺市北区で行われた百舌鳥八幡宮月見祭の宮入の様子を紹介する動画。百舌鳥九町の勇壮な担ぎっぷりが見どころです。

・Vol.2 情熱～奉納に向けた準備～(5分2秒)
百舌鳥八幡宮月見祭に向けて、年番町をつとめた梅町の練習風景や準備を行う様子をおさめた動画です。

・Vol.3 継承～館蔵ふとん太鼓のご紹介～(5分18秒)
当館で展示している百舌鳥本町旧蔵の太鼓台と百舌鳥赤畑町旧蔵の子供太鼓台について解説する動画です。

また、開館当初の昭和56(1981)年1月に制作されたビデオテープ映像「堺のまつり ふとん太鼓(百舌鳥八幡宮)」をテロップ追加などのリマスターしたものも、あわせて上映開始しました。昭和時代の月見祭の様子を記録した貴重な映像です。

